

国語プリント No. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

2分間スピーチ

授業で数名ずつスピーチをおこなう。クラス全員の前で声を出すことにより、次のことを身につけるねらいがある。

(ア)ねらい

- ① 落ち着き 聞く人を見て、適度の緊張状態でも話せるようにする。
- ② 発声 声を数十人に聞こえるように発音することができるようになる。
- ③ 構成 原稿を見ず、話の内容をまとめて、わかりやすく話せるようにする。

入社試験や推薦入試の面接の時の緊張と、クラスの前でかしまって話するときの緊張と、どちらが大きいかというと、クラスの前で話するときだろう。これを経験しておけば、面接試験でも大丈夫。

(イ)方法

- ① ランダムにあてる。(エクセルのランダム関数で順番を決める。)
- ② 1回に付き2分以内。
- ③ 1時間に2〜3名。
- ④ 3学期末まで続け、数回スピーチをする機会がある。
- ⑤ 1分45秒になったら合図を送るので、その後20秒以内にやめること。(20秒たったら打ち切る。)

(ウ)内容

基本的に自由であるが、必ず肯定的、前向きな内容にし、否定的、批判、文句、後ろ向きなものは不可とする。周りのパフォーマンスを上げられるような前向きな、楽しい、笑える話題を心がけよう。思いつかない人は次から選んでみる。(スピーチの話し出しだけ書く)

- ① 「私が勧める本は○○○○です。お勧めの点は3点あります。1点目は……
- ② 「私が将来になりたいものは○○○○です。その理由は3点あります。1点目は……
- ③ 「私が知っている○○○○は3点あります。1点目は……
- ④ 「私の高校生活をひとことで表すと○○○○です。その理由は3点あります。1点目は……
- ⑤ 「私の将来したいことは○○○○です。どうしてそう考えたのか理由は3点あります。1点目は……

(エ)フォーマット

- ① ナンバリングとラベリングを使う。
- ② ラベルは2〜3つ。
- ③ 敬語を使う。
- ④ 「えーっと」や「うーん」、「あのー」などをなるべく発しない。
- ⑤ 顔をみんなに向けて話す。
- ⑥ 見せたいものがあつたらそれをみんなに見せてもよい。(ショウ&テル)

(オ)評価

- ① スピーチ有効回数

※次の場合はスピーチ有効回数に含まれない。

- (一) 笑ったりにやついて正面を見られない場合
- (二) 無言や「えー」、「あのー」などというメタ・ディスコースが10秒以上続いた場合。
- (三) 1分45秒以前にスピーチを打ち切った(または無言になった)場合。
- (四) 否定的、批判的、文句などの後ろ向きな内容だった場合。

- ② 相互評価点数

- ・ 声の大きさや発音(滑舌)がよく聞き取れたか。
- ・ 話す速度は聞き取りやすいものであったか。
- ・ わかりやすい内容だったか。
- ・ 聞いている人に視線を向けて話していたか。



文章の構成ゝナンバリングとラベリングゝ

文章を書く時にある一定の「型」を決めて書くとき書きやすいし、読み手も決まった型で書かれてあればそれに沿って読めるので理解しやすくなる。一番読みにくいのはあっちに行ったりこっちに行ったりしている支離滅裂な文章である。

新聞は、ある決まった型で書かれている。

「タイトル（見出し）↓記事」

「大まかなこと↓詳細なこと」

「重要なこと↓粗末なこと」

「時間的に近いこと↓時間的に遠いこと（過去・未来）」

このようなある決まった型を設けることにより、読みやすさを追求している。また、最後まで読まなければわからない文章ではなく、忙しい時は始めの何行かを読むだけで何が起こったかわかるようにしている。

我々は新聞記者ではないので、新聞のように書かなくても良いかもしれないが、ある決まった型を用いて書けば読み手も読みやすくなる。その決まった型として「ナンバリングとラベリング」がある。

ナンバリング

「ナンバリング」とは、「ナンバー」を付けることである。ただ付ければ良いということではない。まず全体が何番まであり、今は何番目かを示すのがナンバリングである。

私には好きなことが三つある。一つ目は寿司屋やカレー屋や焼き肉屋に行き、ご飯を食べることで、二つ目はゲームをしたりマンガを読んだりサッカーをしたりすること、三つ目は授業中や家に帰ってからすぐや、夕食を食べて風呂に入ってから布団に入って目を閉じることだ。

とした場合、「三つある」と全体像を示し、「一つ目は……」というように全体の中での位置を示すことによって、読み手は「今、全体の何番目だな」ということが分かる。縦書きの場合は「一、二、三……」と漢数字を用いるが、横書きの場合は算用数字を用いる。

ラベリング

しかし、右の例文は、まだ読みにくい。「一つ目、二つ目……」とはいっても、「結局一つ目は何だったかな？」とすんなり頭に入っていないからだ。そのために話の内容に「ラベル」を付けるのが「ラベリング」だ。「ラベル」は、飲み物のビンに何が入っているか貼ってあるシールのことだ。シールを見れば何が入っているかすぐにわかる。「ビール」と書いてあったり、「ジャム」と書いてあったり、「毒」と書いてあったりする。文章にも「ラベル」を付ける。そしてラベルごとに改行すれば段落が完成する。

私には好きなことが三つある。一つ目は食べること。二つ目は遊ぶこと。三つ目は寝ることだ。

一つ目の食べることにについて説明する。私は回転ずしやカレー屋や焼き肉屋に行つてご飯をよく食べる。

二つ目の遊ぶことについて説明する。私はテレビゲームをしたり、マンガを読んだり、友人と公園でサッカーをしてよく遊ぶ。

三つ目の寝ることについて説明する。私は授業中や、風呂に入りながらや風呂から上がってからや、朝起きてからよく睡眠をとる。

以上で四段落の文章ができた。第一段落は全体の構成。第二段落以降は第一段落で示したラベルをラベル一つに対して一つの段落で詳しく説明するだけだ。こんな「型」を導入するだけで、読み手はぐっと読みやすくなったはずだ。